

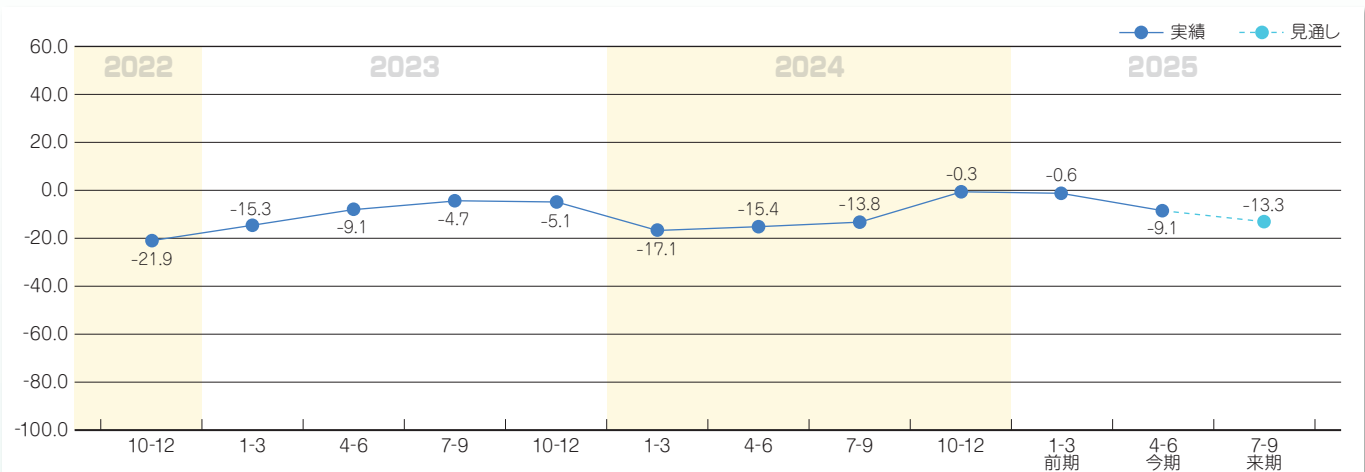
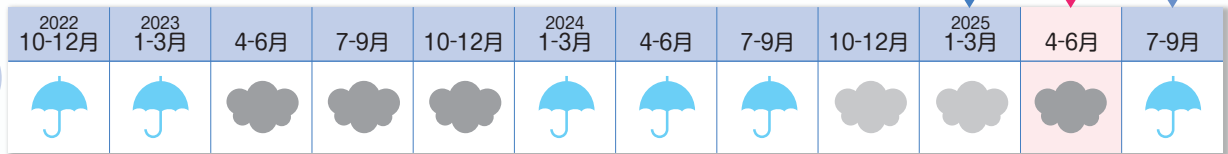


全業種

回答数322社

今期の業況D・Iは、前期比8.5ポイント低下の▲9.1。仕入価格や人件費等の上昇の影響が続いており、すべての業種で悪化した。来期の予想業況D・Iは、4.2ポイント低下の▲13.3と、来期も悪化の見通し。卸売業は横ばいを見込むが、その他の業種は悪化を見込む。

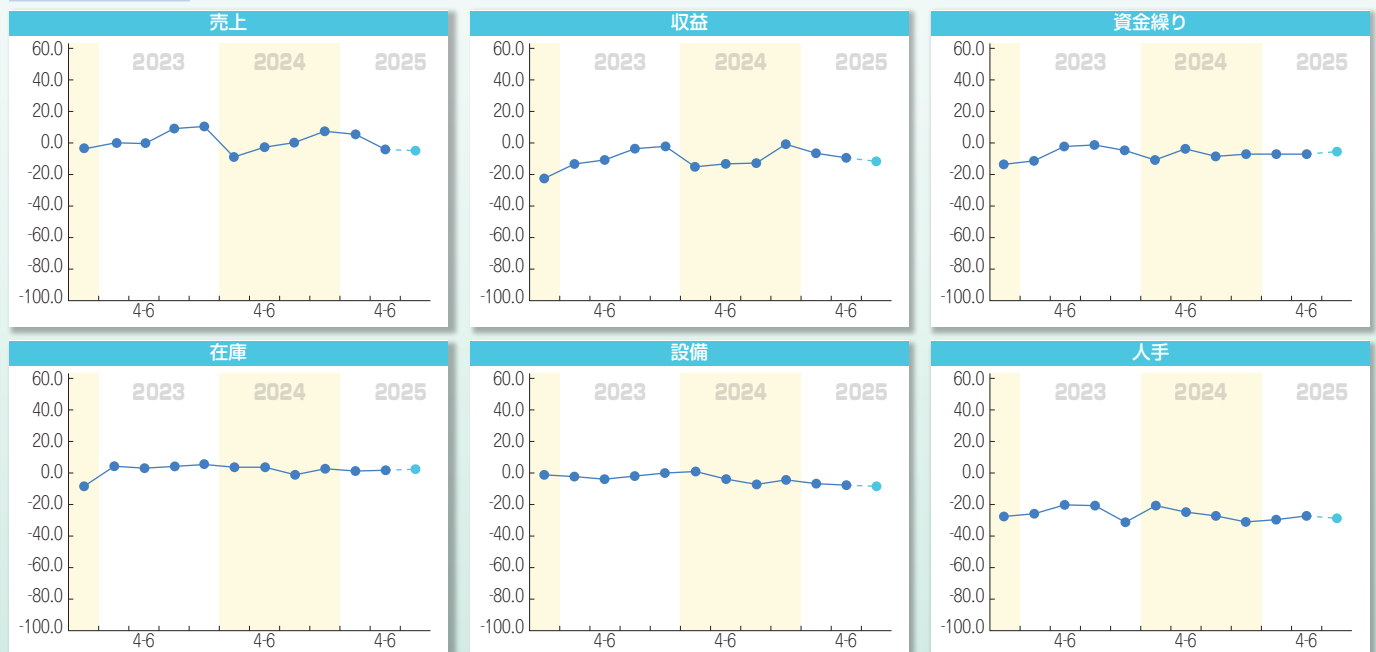
前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・I
の推移

主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



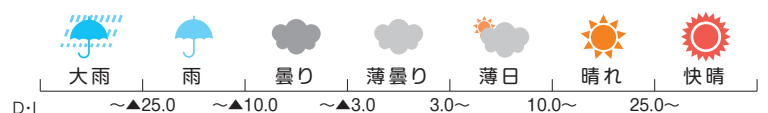
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査
概要

実施時期 2025年6月2日～6日
対象企業 322社
対象地域 西三河および尾張南部を中心とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョン・インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。



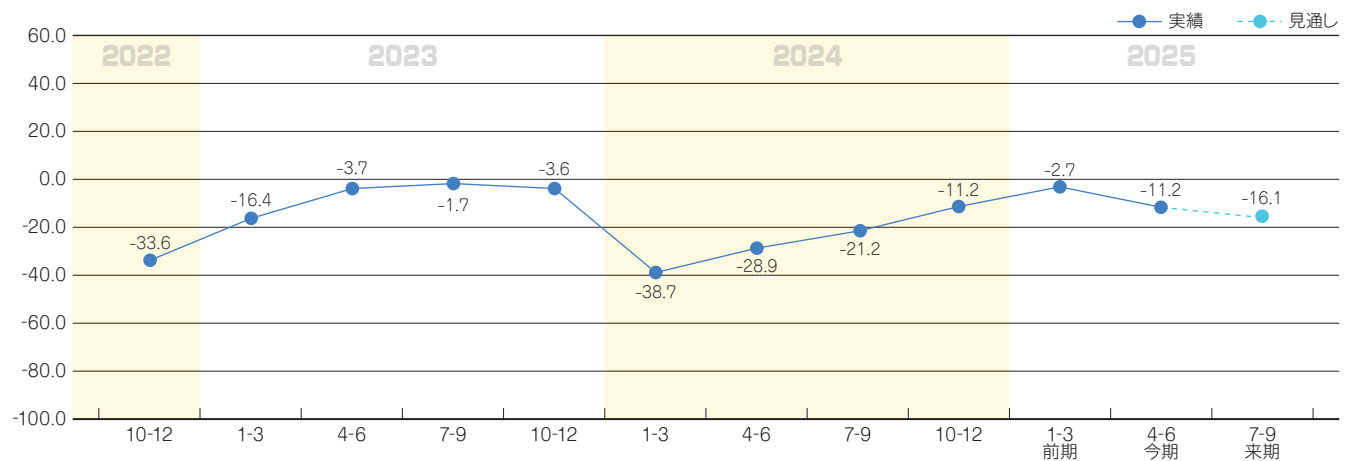
製造業

回答数124社

今期の業況D・Iは、前期比8.5ポイント低下の▲11.2と、5期ぶりに悪化。コスト増に対しては価格転嫁等の対応により収益を確保する企業が多いが、資金繰りが厳しいとの声も聞かれた。アメリカ関税政策の影響が出ている企業もある。来期の予想業況D・Iは4.9ポイント低下の▲16.1と、来期も悪化が見込まれる。

前期実績 今期実績 来期見通し

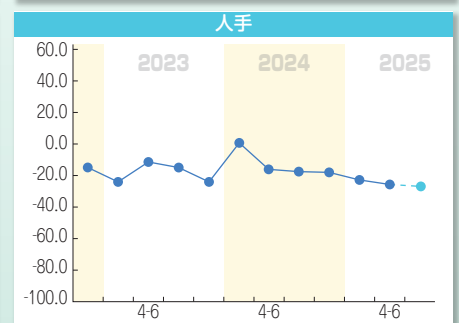
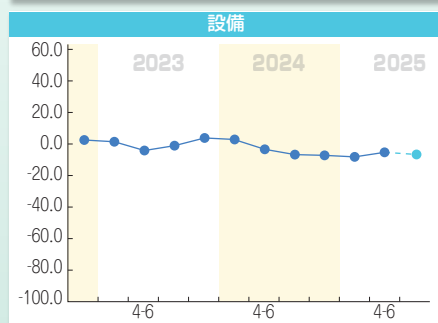
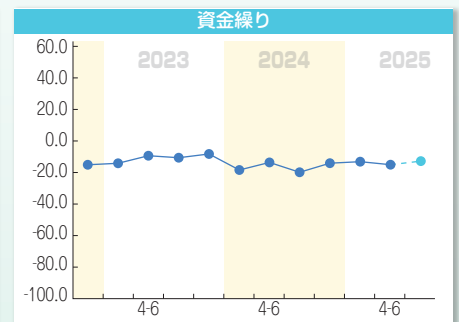
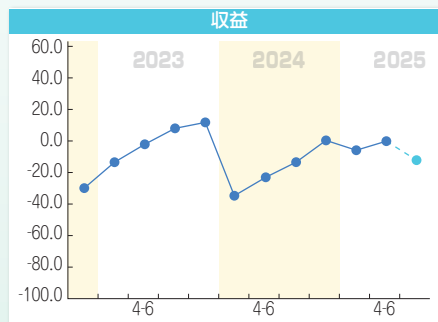
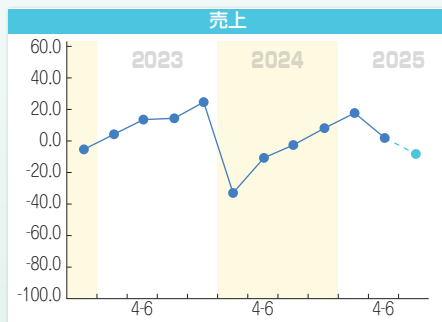
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 仕入価格上昇分は価格転嫁しているものの、人件費や送料分までは賄えていない。(繊維製品製造・販売)
- 人手不足等に対応するため、省力化投資(IT、設備等)に力を入れている。(鋳鉄製品製造)
- トランプ関税の影響から受注が前倒ししてきていた。今後は政府間交渉を注視していく。(自動車部品製造)





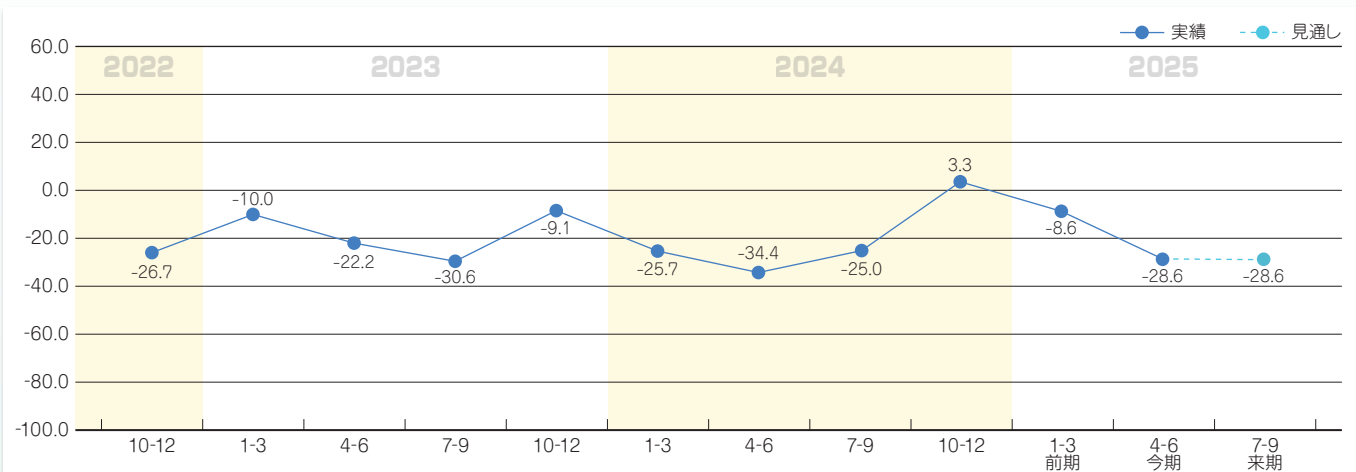
卸売業

回答数28社

今期の業況D・Iは、前期比20.0ポイント低下の▲28.6。売上D・I、収益D・Iとも大幅に悪化。仕入価格や人件費等の上昇の影響が続いている。人手不足により売上、収益ともに減少したとの声も聞かれた。来期の予想業況D・Iは横ばいの▲28.6。アメリカ関税政策の影響を懸念する声もある。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



- 仕入価格や人件費が上昇しており、収益を圧迫。業務効率化を図り、収益改善を図りたい。(食品卸売)
- 十分な人手を確保できておらず、売上、収益ともに減少傾向。(土木資材卸売)
- 競合他社への対抗もあり、経費削減等の企業努力で販売価格を据え置いている。今後も販管費を見直し、売上確保していく方針。(燃料卸売)
- 鉄鋼もトランプ関税の適用対象となったため、今後の影響を懸念。(鋼板卸売)



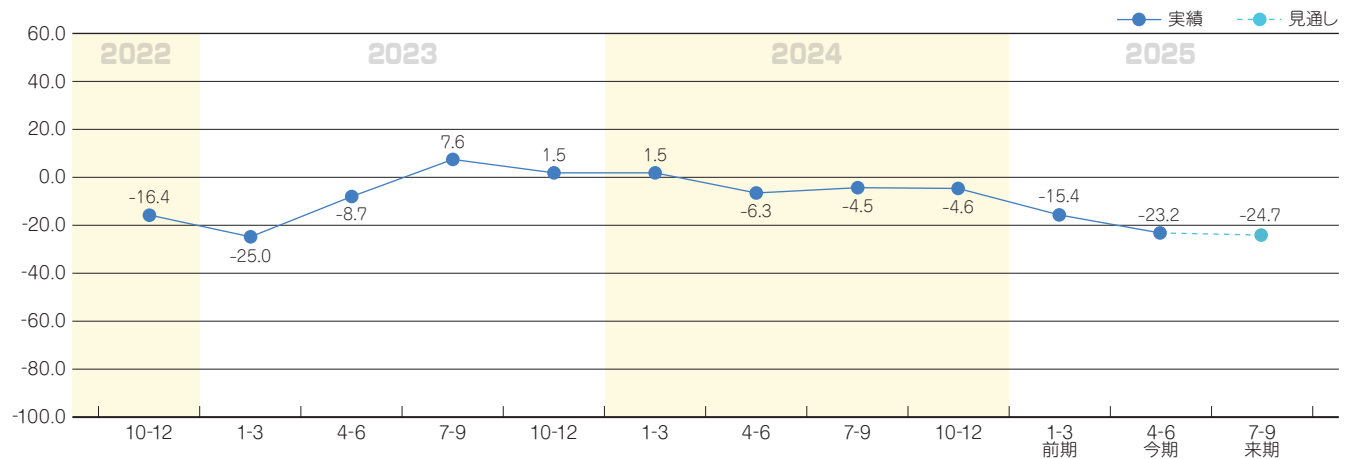
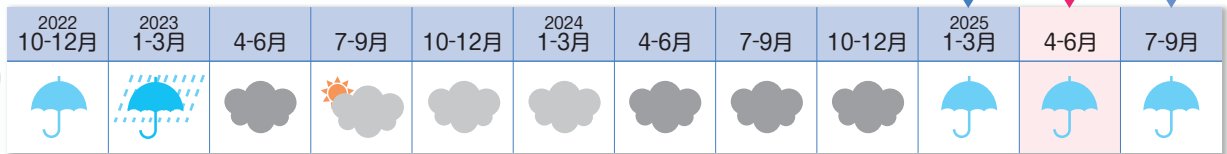
小売業

回答数65社

今期の業況D・Iは、前期比7.8ポイント低下の▲23.2と、2期連続で悪化。売上D・Iは改善したものの、仕入価格高騰の影響により収益が圧迫されているとの声が多く、収益D・Iは悪化。来期の予想業況D・Iは1.5ポイント低下の▲24.7。来期も厳しい状況が続くことが見込まれる。

前期実績 今期実績 来期見通し

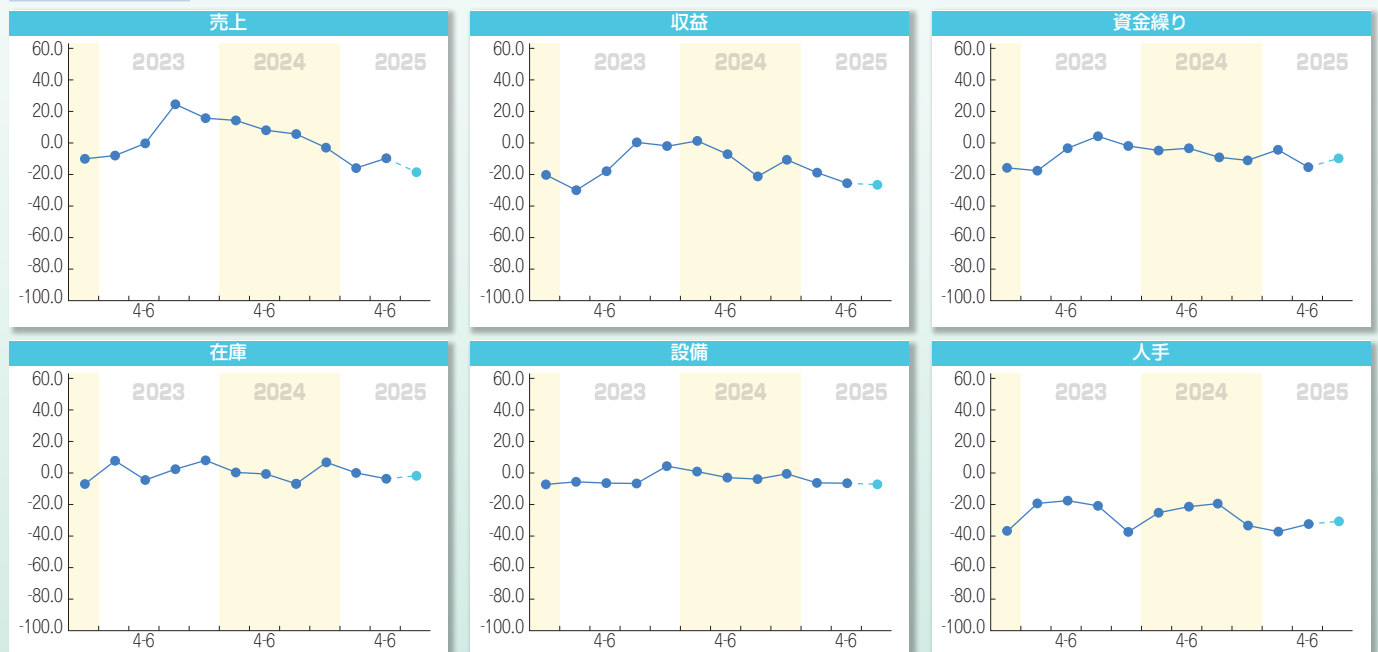
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 夏に向けて売上は増加傾向。人件費削減のため、パートの労働時間を見直した。(家電製品販売)
- 新車トラックの納期の長期化が続く。外資系ディーラーの参入もあり、商品は不足気味。仕入価格の増加に対し十分な転嫁が出来ておらず、利益率に影響が出ている。(自動車販売)
- 従業員の高齢化や仕入価格の高騰など、経営を圧迫する要因が多く、先代からの資産を切り崩し経営している状況。(飲食店)



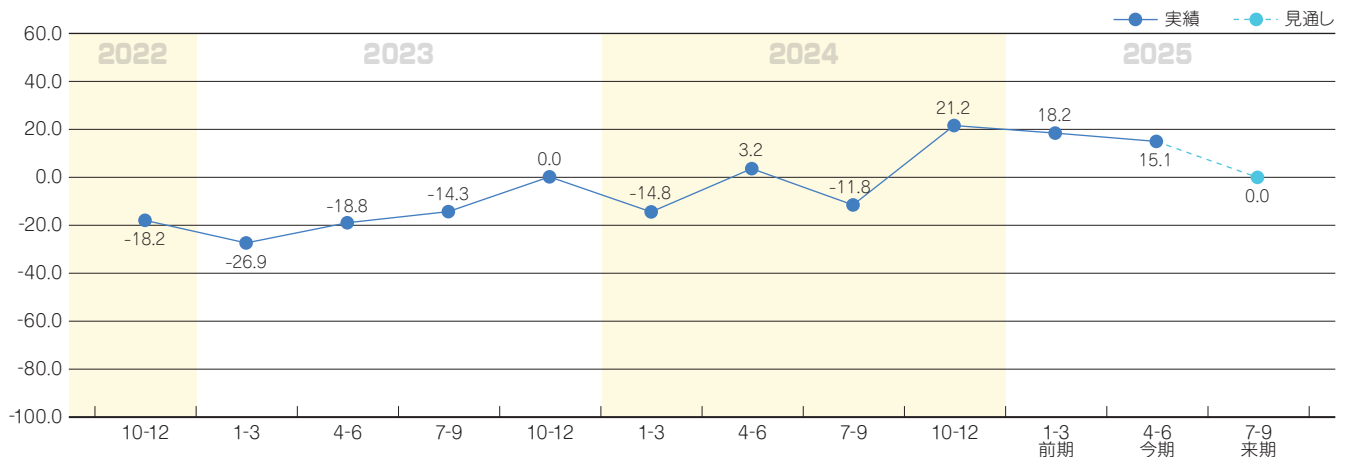
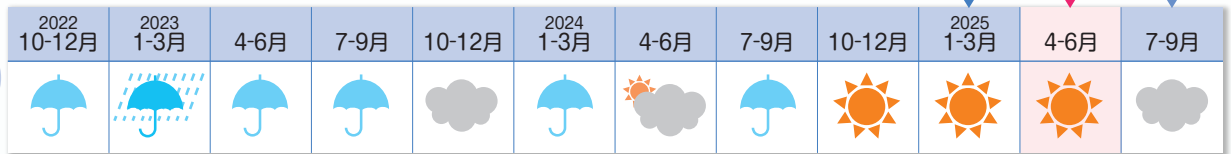
サービス業

回答数33社

今期の業況D・Iは、前期比3.1ポイント低下の15.1。2期連続でやや悪化するも、引き続き高水準を維持している。人手不足解消に向けた取り組みなどにより、人手D・Iは2期連続で改善した。来期の予想業況D・Iは15.1ポイント低下の0.0。売上D・I、収益D・Iとも悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

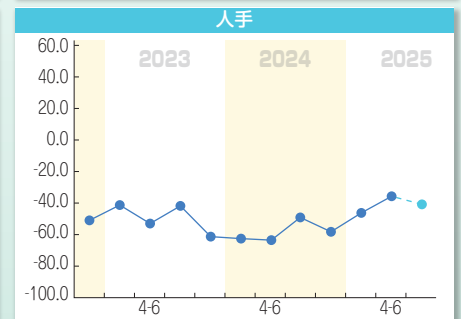
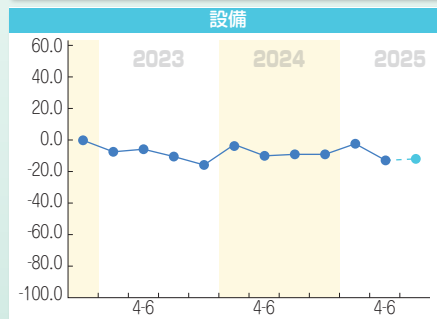
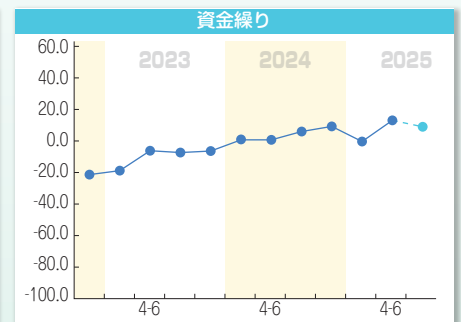
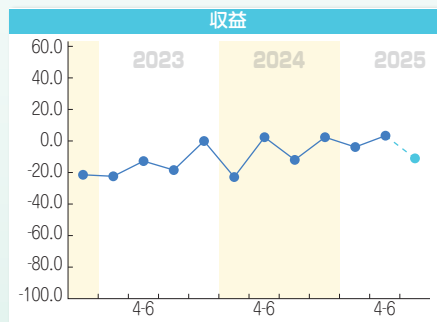
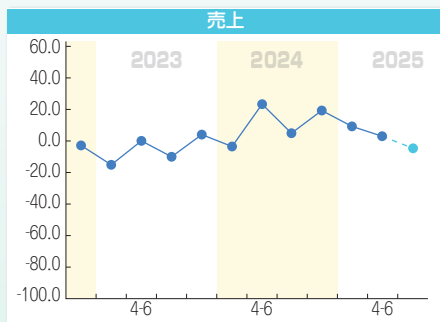
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 売上減少、取引先減少の対応策として、SNS(YouTube、Instagram)の活用など、取引先獲得に向けて取り組んでいる。(税理士法人)
- リピート客、新規顧客獲得のため、新メニューを導入した。人手不足対策としてHPを改良するなど、広告宣伝を強化している。(理美容業)
- 人材の確保は計画的に進められている。(自動車整備業)



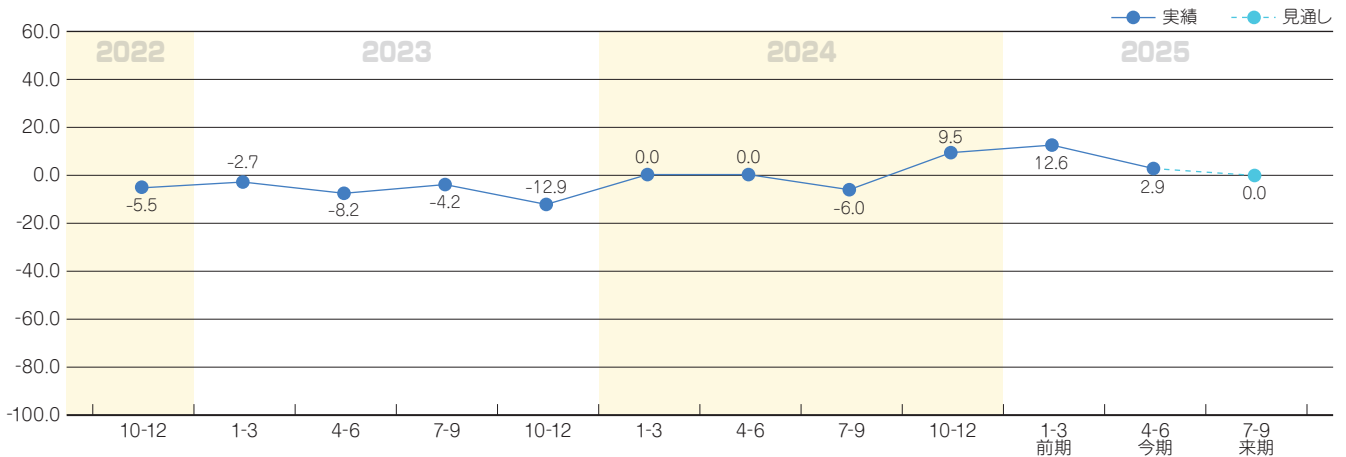
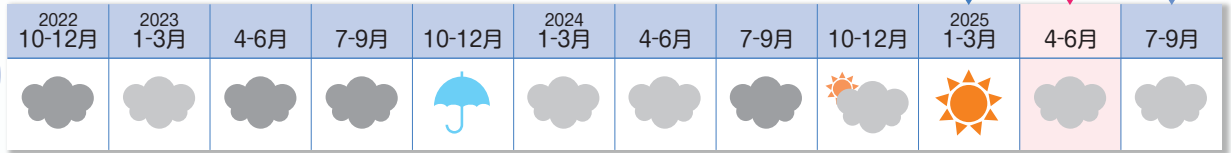
建設・不動産業

回答数71社

今期の業況D・Iは、前期比9.7ポイント低下の2.9と悪化。プラス水準での推移が続くが、仕入価格や人件費等のコスト高の影響が続いており、収益を圧迫されている企業が多い。前回調査に引き続き、建設業では、受注が安定しているとの声が多く聞かれた。来期の予想業況D・Iは2.9ポイント低下の0.0と、わずかに悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

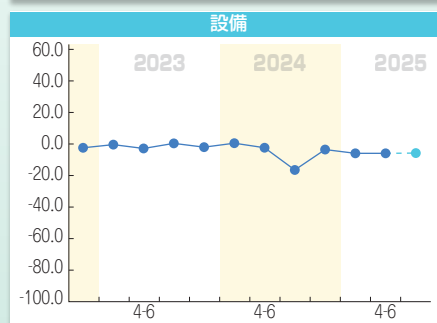
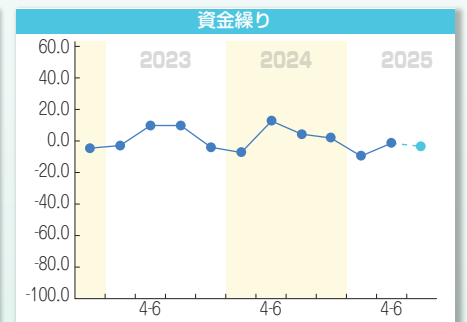
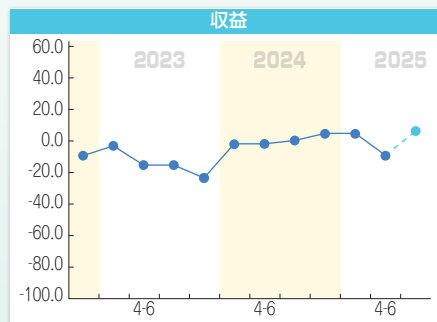
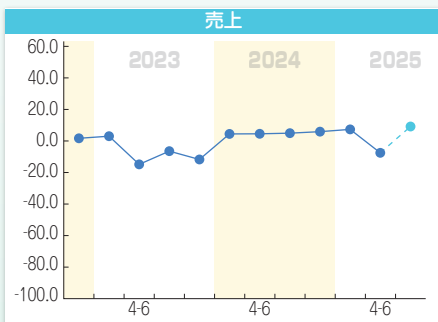
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 人手不足が続いており、新卒採用を強化。(土木工事業)
- 受注は安定しているが、原材料価格や外注費が高騰しており、収益力の確保が課題。(建築業)
- 物価高騰により消費が冷え込んでいる。暫くは土地の仕入れを見合わせる。長期間所有している収益物件の売却による借入返済を検討している。(不動産業)